明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可

岐蘇林友

明治四十五年二月二十三日印刷
明治四十五年二月二十五日發行
（定價三錢）
編纂兼發行人　長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地　安井正夫
印刷者　長野縣松本市本町百八拾四番地　兎澤忠雄
印刷所　仝縣仝市仝番地　交文社
發行所　長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地　蘆澤書店

生徒募集

一、來ル四月本校第一學年ニ入學スヘキ生徒約五十名ヲ募集ス

明治四十五年二月

長野縣　木曾山林學校

●入學手續

本校ニ入學セントスル者ハ入學願書ニ履歴書及体格檢査書ヲ添ヘ來ル三月廿六日迄ニ差出スヘシ其樣式左ノ如

入學願書（用紙美濃紙）

御校ヘ入學志願ニ付御許可被成下度履歴書及身体檢査書相添此段願上候也

何府縣何郡市町村何番地居住
何府縣族稱誰子弟
入學志望者　何　某印
仝上　右父母後見人　何　某印

長野縣立　木曾山林學校長江畑猷之允殿

履歴書

本籍　何府縣何郡市町村番地族籍戸主又ハ誰子弟
寄留地　何府縣何郡市町村番地

何　某印
生年月日

學業

一何年何月ヨリ何學校ニ於テ何科何學年ノ教科ヲ修業若クハ卒業（證書ノ寫シヲ添フヘシ）

一何年何月ヨリ何年何月迄何處何某ニ就キ何學ヲ修業

賞罰

一何年何月何處ニ於テ何事ニ付賞若クハ罰

右ノ通相違無之候也

年月日

身体檢査書

何府縣族籍
本籍
寄留地

何　某
生年月日

一、体格　一、身長　一、体量
一、胸圍（常時／充盈／空虛）　一、視力　一、痘

年　月　日　何病院長又ハ開業醫何某印

○入學者資格及試驗

第一學年ニ入學シ得ル資格左ノ通リ

一、年齢滿十四年以上ノ男子ニシテ高等小學校卒業若クハ中學第二學年以上修業又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二、身体健全ニシテ規定ノ學科ヲ修ムルニ耐ユル者

三、品行方正ニシテ林業ニ從事セントスル志望確實ナルモノ

四、在學中學費ヲ辯シ得ル者

右第一項末段同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ除クノ外無試驗入學ヲ許可ス但シ入學志願者ガ應募人員ニ超過スル時ハ應募者今体ニ就テ試驗ヲ行フ其程度ハ高等小學校卒業ノ程度ニシテ國語算術地理日本歴史理科ニ就テ試ム尚願書差出期限三月廿日ニ尚在學中ニシテ三月末迄ニ卒業若クハ修業ノ見込アル者ハ其旨ヲ記載セル當該學校長ノ證明書ヲ願書ニ添付シテ差出スヘシ

○入學試驗場

擢拔試驗ハ木曾管内各郡市役所ニ於テ又他府縣及本校所在地在住ノモノハ本校ニ於テ執行ス前者ノ場合ニハ入學願書提出ノ際受驗地ヲ記シタル屆書ヲ入學願書ニ添付スヘシ

○試驗期日

試驗ハ四月四日午前九時ヨリ前記ノ學科ニ就キテ執行スレハ當日洋服若クハ袴着用鉛筆硯筆小刀用紙等携帶出願スヘシ

但シ有資格者ニシテ擢拔試驗ヲ要スル場合ハ豫メ學校ヨリ通知ス

○岐蘇林友目次
○論說　獨逸、林業の利益增進策
○學術　一樹一木、ラウレルの木
新潟縣の林業
竹類開花の原因
○拔萃　駄馬千里、洋舟小言
○文苑　林界雜俎、學校便り、
○雜報　察より、校友消息、編輯局より

論說

獨逸

江波多

獨逸の隆々たる國勢は世界各國人の羨望する所なるが之は何人も獨逸人の非常なる勤勉の結果に基因することは否定しない然しながら吾々は同國人の勤勉と同時に天然的の要素が良好で両々相俟ちて初めて今日あるを致したる者と豫想するのが當然である即ち農地も豊饒で林地は良材を以て滿され河海に巨口細鱗群をなし更に山には食用禽獸の繁殖夥しき者あるならんと然るに焉んぞ知らん同國の自然的要素に對する吾人の想像は全然反對で單純に國民の努力のみの結晶が世界の尊敬と恐怖とを以て充されつゝあるを聞くに及んでは我國人の以て範と

する者大なるを思はしむ左に『ゾンバルト』氏所論の一節を摘記せん

抑も獨逸は露西亞、墺地利、匈牙利、佛蘭西の三大國、和蘭、伯爾義、丁抹の三小國及瑞西、『ルクセンブルグ』によりて圍繞せられ而して四王國及數多の公侯國并に自由都市より構成せられ各聯邦總面積五十四萬方吉米突の内普國は六五%墺國は一四%索國三%其他南力四ヶ國、一〇%を占め又人口に於ても普國は六〇%を又帝國議會に於ける議員三百九十六人中二百三十六人は普國の撰出に係り次に司法、軍事、通商に關する立法は六十七名の聯邦各議員の任務に屬するも普國は十六人巴國は六人以下皆二人以内を出せるのみ即ち普國は廣袤に於て權力に於て威望に於て其他凡ての點に於て優越なる地位にあり

次に獨逸の地質は優良なる者にあらずして各其地方によりて著しく相違し僅かに『ライン』河流域及南獨逸の小區域に葡萄、蔬菜及果物等を產出するに過ぎざるのみならず牧畜事業を容易ならしむべき優良なる牧草地の如き比較的少なく且獨逸の北西なる普國一圓の低地は佛英其他の諸國は到底比較する能はざる程度に地質は劣等にして多くは不毛なる粘土砂地にて獨逸農業の生產力は中級以下の憐むべき狀態にあり試に普國の殆んど半ばは農地一「モルゲン」の純收益僅かに三「マルク」以下の土地にして殘り四分の三は純收穫六「マルク」以下に屬するが如き更に土質の良否によりて區分すれば全面積の十分の一弱が僅かに冲積層よりなる濱海地及低地にして地味優位なるも四分の一弱は高岳地四分の一强は洪積層の丘陵地又其五分の二は砂礫地及池沼地より成立せるの狀態なれば之等生產力薄弱なる農地を經營するに天然力にのみ依賴する能はず

して大に人力を以て土地の改良を企圖し之が爲め農業教育の進興を促し農產物產額の增進を企劃しつゝあり

更に林地に就きても同樣に樹種に於て生長量に於て諸外邦に大に劣れる者あれば全く人智の應用によりて之が恢復を計りつゝあるは吾人の夙に知る所なれば擱筆せん

次に氣象上の關係に就きても獨逸は甚だ不幸なる地位にあり即ち大陽の空に懸るべき半分の時間たも獨逸の國土を照す所なく多くの地方は唯其三分の一時間のみ光線に浴する事を得るに過ぎず大概雲霧に閉され加ふるに夏期は降雨連日に亘りて農作物に多大の損害を與ふる事甚しく且一ヶ年平均氣温は八乃至九度にして殊に海濱を遠かるに從ひて温度の兩極端著しき者なり

次に獨逸は又大國なるに拘らず海岸線短きが爲めに魚類の產額割合少なく殊に人口增殖が魚類の減少を來したるのみならず漁獲の方法漁具の製造法の著しき進歩の爲めに魚類の生產力よりも却て漁魚額の過大なる等種々なる事情の下に不得已養殖法を講じ魚池作業が彼國に於て發達し之に次ぐは米國なりとす斯くの如く科學的智識を以て自然力を支配せんとする雄大なる思想を極度に懷ける獨人には魚類の產卵期棲息場、人工孵化等積極的研究に力を致し一面消極的に漁期及漁具の制限并に漁具の區域を限定する等の方法を學理と實驗とに基きて研究の結果を實現し特に養鯉事業とは獨特の長所を有し沼澤は勿論山間溪流の如き又河川に沿へる荒蕪地を巧に利用し養魚池を作り產卵池、孵化池、稚魚養生池其他種々なる設備を施して池水の研究は勿論餌食及害虫に至る迄精細なる調査をなし集約的養魚を實行しつゝあり或者は人工を加へたる魚類は肉質、香味、其他に於て到底天然產に及ばずと論するも特種の魚類に就きては然らんも概說これが魚池作業によりて得たる者は他の者より優等なるは爭ふべからざるなり近時米國にては一般養魚の盛なるに伴ひ鰐魚の養育個所二ヶ所あるを聞くに及んでは養魚の進歩も亦大なりと謂ふべし

序でに日本にては祝祭日に用ゆる魚類には各地夫々習慣ありて我が鄕里大和にては鎭守の祭典には必ず鯛を何程高價にても食膳に供し又正月には生鰤を用ゆるが如く獨逸にても此習慣は我國と異ならざる者の如く正月元旦には伯林の肴屋の店頭には至る所『鯉あり』との赤『インキ』にて大書せる『ビラ』を垂下し客を呼ひつゝあるは一面鯉魚の貴富なるを示す者ならんか

人或は斯くの如き感想を起す者あらん彼の獨逸の如く凡ての自然的關係が人民の生息に不充分なる土地は早く見棄てゝ優越なる地位にある廣大なる植民地に移住すればよからん者をと然れども『ラオドル、フォンタネー』が「此地を愛し得る者は此地に生れたる者ならざるべからず」と謂へりし如く獨人は此等の境地に惡戰苦鬪して彌々入爲を以て天然力を支配しつゝある大丈夫的の行動には瑞穗の國に生を享けつゝある國民に藥にしたき者なり

本邦森林の現況に對する

『附』林業教育の急務

（前號の續き）　北村正夫

六、運材法の改良

元來經濟學の元則から云へば重量容積の大きく單價の廉なる貨物は運輸の便利な

市場に近き所に於て生產すべき市場を遠く隔だたる不便なる土地に於ては成べく容積の小い重量の輕い運搬に便利なるもので且つ成べく單價の貴きものを生產すべきが當然である然るに我林業は此の經濟上の元則に反して誠に無理な仕事を爲ねばならぬである即ち林業は何れの國に於ても市場と最も遠く離れた且つ運輸の最も不便な山嶽地に於て營まれ其產物たる木材の容積甚だ大きく重量も輕からず且つ其の價も甚だ廉いのである之れ林業經營上運材法の殊も講究を要する所以であつて從て林業の利益も或程度迄は運材法の適否に關する次第である、而して運材法には水運陸運の二樣あり水運法には管流、筏流等陸運法には淺路、木馬、鐵索、荷車、鐵道等種々の方法があつて簡單なるものは設備費を要することは少いが運搬の費用を要することが多い又複雜なるものは運搬費は比較的少いが設備費を要することが多いから小林業者は獨力にて經營することは出來難く且つ運搬すべき材料の多額に存する場合でなければ却て不利益となる殊に此等は其土地の狀況と木材の性質等に關して大に得失のあるものであるから複雜なる設備をなすが必ずしも利益であるとは云ひ難く要は其實地の狀況林產物の形質及數量等を參照して其得失を講究することが大切である

七、木材賣却法の改良

元來林木の伐採は單に木材を收穫すると云ふことの外に次期の森林を完全に造成する手段即ち森林を更新すると云ふ事を意味するものである故に猥りに收穫の費用を少なからしめ以て一時の利益を增進せんとするが如きは實に心なき業と云はねばならぬ殊に天然造林を行ふとき又疎伐を施す時の如きは最も注意を要するものであつて若し其方法を誤るが如きことあらば森林荒廢の原因となり後日に大なる損失を殘すことゝなる然るに從來多くの森林に於ては立木の儘で商人に賣却して而して其伐木運材の方法等に就ては何等の制限をも設けて居ない夫れ故林木を買ひ受けた商人は專ら其採得費を少なからしめんことのみに留意し伐木跡地の造林や附近森林の荒廢などのことは全く心配せず亂暴極まる運材法を行ひ森林を甚だしく荒廢せしむることがある夫れ故今後は伐木并に林外迄の運搬は成べく林業家に於て經營せらるゝ樣にしたい若し止むを得ず立木の儘で商人に賣り渡す場合には其伐木及運搬法に付き必要なる制限を加ふることにしたい

次に現今立木の儘で賣却する有樣を見るに雜木林の如きは全く目側に依り又大きな用材林でも其本數と目通りの週り位を概測して夫れで數十圓數百圓時としては數千數萬圓の賣買取引をやつて居る考へて見れば隨分亂暴極まる次第ではないか農家が米を測るに桝の傾け方に迄苦情を云ひ目方を計るに秤の使ひ方を八釜敷云ふ世智辛い世の中に何百何千圓と云ふ大金の品物を半ば目測でやつてのけるとは余りに大膽過たやり方ではないか嘗て或る材木商の話しに『從前は隨分甘い事があつて千圓位のものを三四百圓で容易に買ふことが出來たが近頃は林業家が馬鹿に疑ひ深くなつて商人の方から千圓位に値付けをすれば二三千圓でなければ賣らぬと懸引きをやつてくるので殆んど手の付け樣がない』と之れが所謂盲目滅法と云ふことであろう斯くては到底圓滿なる取引きを爲し得るものでないから今後は立木の儘賣却すると伐採して賣却するとに拘らず精確に其材積を實例して正當の價格を評定し賣買をなす樣にせなければならぬ

八、造林費の節約

林業は最初造林をしてから伐採收得をなす迄では少くも十數年より數十年時としては百數十年を要することがある故に林業の利益を計算するには必ず重利算の方法によりて利息の計算を加へねばならぬ然るに造林費は林業上最初に支出する費用であるから僅少の金額でも之れを伐期に至る迄の長年間の利息を計算すると大變な金額となる例へば今壹圓の金を五分利にて計算すれば五十年後には拾壹圓五十錢百年後には百參拾一圓五十錢となる又一割の利子にて計算すると五十年後に八百拾七圓五十錢百年後には壹萬參千七百八十圓七拾錢と云ふ大變な金額となる故に林業經營上諸種の經費は成べく節約するを要するも殊に造林費の節約は林業の利益增進策として最も重大なる關係を有するものである、左りながら節約とは左程の必要なき經費を省くの意であつて必要缺くべからざる經費は充分に支出せねば却て一錢を惜みて百錢を失ふの愚となるから此の點は前に述べた所を參照して誤解なきことを望む

以上第一項から第八項に至る各項に付て極大要丈けを述べたが其說明が餘りに簡に過ぎ或は其要項をも了解し得ざりし點もありしなからんかと考へるが前にも斷て置た通り此等の各項を充分に說明するには殆んど林學の全般に付て述べねばならぬ、此の限

りある紙上に於て述べ盡すことは到底不可能であるのみならず此等の各項を適當に處置し合理的の林業を經營し以て最多の利益を穫得せんとするには假令千萬の文字を連ぬるも紙上の說明のみを以て遺憾ならしむることは頗る困難である

由來林業は農業と相似たる土地生產業であるが其經營上の實際に就ては甚だしき差違がある即ち農業にあつては耕耘施肥灌漑排水其他客土補溫等の如く人爲を加へて天然の足らざる所を補ひ不適當の土地も自已の希望する作物を栽培し得る如く改良することが出來るが林業に於ては此等の人爲的如工を施して急斜の山嶽地を平となし或は寒冷の氣候を溫暖ならしむる等の如きことは全く不可能であるから主として天然力及天然物に依賴すべきものである夫れ故林業の經營及諸般の施設は總て土地氣候の狀況に應じて適切ならしむる樣工風せねばならぬ又林業は數十年間に涉りて數回に收入支出をなすものでありから其經濟的關係の複雜なることは他の生產事業中殆んど比類を見る事能はざる所で隨て施業法の得失や林業の利益額を計算するには高等數學によらなければならぬ、而も林業地は不便なる山嶽地方にあつて廣大なる地域に擴まり其土地氣候の狀態は頗る多種多樣である其千種萬樣の天然の狀態に對して適切なる施業法を工風し一方に於ては數十年先き迄の經濟的關係を精密に講究して誤りなからしめんとすることは頗る至難のことで必ず一定の順序によりて秩序ある專門敎育を受け尙不實地の經驗を有するもの即ち專門森林技術者でなければ到底爲し能はざる所であろうと斷言するを憚らない

以上述べた所を約言すれば林業の利益を增進するには土地氣候等天然の狀態に對し樹的種の性質や經濟關係等を參照して適切なは施業法を工風し所謂合理的林業を經營するにある而して此の至難の經營法を誤りなく施行するには必ず一定の順序によりて敎育せられたる專門の森林技術者を要することを述べたが讀者諸君に於ても首肯せられたる所であろうと考へる然らば此の二段の論定より次の如く演繹的に推論することが出來よう即ち

一、林業の利益を增進せんとせば合理的林業の經營をなさざるべからず

二、合理的林業の經營をなすには專門の敎育を受けし森林技術者を要す

三、故に林業の利益を增進する根本的の良策は秩序ある林業敎育を普及せしむるにあり

即ち林業の利益を增進せんとするには林業敎育の普及を計り眞に技能ある森林技術者を養成して其任に當らしむる樣にせなければならぬ彼の雜誌新聞或は短時間の講話等によりて森林技術に關する斷片的の說明を聞くが如きは多少の參考となることは勿論であるが此等は林學全般より云へば唯枝葉のことに過ぎない、然るに枝葉は健全なる根幹あつて初めて完全に其働きを爲すものである故に根幹となるべき專門の素養あるものに對しては斷片的の說明も大なる參考となるのみならず更に夫れに依てより以上の枝葉を生ぜしむることが出來ようが專門の素養なきものに對しては根幹なき枝葉即ち枯枝たるに過ぎないから唯薪炭等と爲して一時の用に供することは出來ようか更に夫れ以上成長せしむることは到底出來ぬことと信ずる

尙以上の論旨を證明するために世界第一の林業國たる獨逸國及近年頓に森林の整理せられたるを以て有名なる匈牙利國に於ける林業敎育と森林整理の關係に付き述べよう即ち獨逸國の林業は世界第一なりとは世の普ねく是認する所である然しながら獨逸は我國の北海道と大差なき寒國で其上林業上最も大切な雨量も小く土質も甚だ瘠惡てあるし且つ林木の種類の如きも至て少く其木材の性質も林木の生長量も甚だ不良である夫れ故我國では殆んど捨てゝ顧るものもない唐松、樅、掬などの樣な惡木が獨逸林業では最も大切な林木で恰も我國の杉、扁柏、欅、櫟等の如くに造林せられて居る左れは林業上に於ける天然の要素は頗る不良で我國などに比すれば實に玉石の差違ありと云ふも過言でない然るに此の氣候も土質も劣等な獨逸の內でも殊に最も地味の惡い殆んど砂漠地の如しと迄云はれて居るプロイセン國に於てさへ一町歩に對し每年平均二十五圓の收益を擧げて居る又最も進步して居るサクヤン國では一町歩平均四十二圓餘の年收入を擧げて居ると云ふ、我國でも吉野地方の如き一局部に於ては殆んど獨逸と大差ない程の收益を擧げて居る森林も在るが日本全國の森林に對する平均一町歩の收益を計算するときは實に僅少なるもので到底獨逸の足元にも寄り付くことは出來ない、斯樣に獨逸の林業は天然の要素の甚だしく不良なるにもかゝはらず斯く迄も多額の收利を擧ぐるを得るは全國の森林が能く整理せられ何れも合理的に經營せらるゝが爲めであつて其斯く成るを得たるは全く林業敎育の普及せんために外ならぬのである印ち彼の國にては百數十年より簡易なる林業敎育が行はれ其後漸次完全なる林業敎育機關が設けられに盛んに森林技術者を養成し之れ

等の技術者は從來實地家のみに依て經營せられて居た森林を改造し着々合理的の經營をなすことゝなり現今にては民間の林業者でも大低は專門の敎育を受けた完全なる技術者であつて專門敎育を受けないものは眞の林業家たる資格なしと迄云はれて居るとのことである

次に又匈牙利國は近年に至る迄は餘り外國から注意を拂はれなかつた國であるが近年に到て各種の產業著しく進步し工業の如きも今や獨國の强敵であると云はれて居る殊に林業は非常なる速度を以て整理せられ今や林業に於ても獨逸を凌がんとする勢を示して居る、同國の林業が斯く長步の進步をなすに至つたのも全く林業敎育の盛大となつた爲である即ち同國に於て林業敎育の稍々盛んになつたのは西曆一千八百六十年即ち今より五十二年前であるが然し其當時は全國を通じて每年の林學卒業生は僅かに九十名內外に過ぎなかつた其後漸次盛大に向ひ一千八百八十五年頃今より二十七年前には每年三百六七十名の卒業生を出す樣になり之れ等の卒業生が銳意森林整理の衝に當て活働した結果今日あるを得たので其每年の卒業生の數は實に同國の森林が如何に整理せられたるやを數學的に示すものである

以上二國の例に依て見るも合理的林業の經營に對して林業敎育が如何に大なる關係を有するかを證明することが出來よう

尙地理書の示す所によれば匈牙利國は人口一千七百餘萬山林面積九百餘萬町と云ふことである今之れを我國に比較するに人工に於ても我國の約三分の一弱に當て居る然らば匈牙利國の事實に鑑みれば我國も近き將來に於て每年三百六七十名の三倍即ち約壹千百名內外の林學修業者を出す樣にならねばならぬことゝ考へる然るに我國現時の林業敎育は未だ甚だ不完備である爲めに每年の林學卒業生の數は僅かに二百餘名に過ぎない次第である

然も甚だしく荒廢せる我國の森林は何れ時に到れば整理し得らるであろうが實に慨歎に耐へない次第である

殊に公有林の整理は我國現下の大問題である一町村に於て數百町の大森林を所有するも尙少くない假令斯の如き大面積を有せざるも苟も町村公共財產の管理經營の任に當り以て町村の基本財產たるの實を擧ぐるには必ず素要ある森林技術者を要することは當然である又先年我日本帝國と合せし朝鮮の林地は約一千六百萬町の大面積を有するも其約五割は全く禿山と化し又三割三分は僅かに立木を有するも非常に荒廢して盛んに犯濫し氣候甚だ不順で種々の流行病が多く內地人の移住に適せない所が多いので近年當局者も漸く此點に着目する樣になり森林整理の大計劃を立て多數の森林技術者を採用して其任に當らしむると云ふことである其他御料林、國有林の經營上并に府縣郡に於ける林業奬勵の任に當たるべき技術者を要することは頗る多數である現時我國に於て林業敎育を受くるものは十中の九迄は官署に奉職し自から林業の經營を企つるものゝ甚だ少いのは其待遇が甚だ厚きと需用の甚だ多いためである元より官署に奉職するも共に林業のために盡すのであるから敢て悲觀すべきことではないが斯くては私有林の經營は到底完全を望むことは出來ない今や民間の林業志想も大に進步し到る處盛んに造林の行はるに至りし際林業敎育の機關が之れに伴はず專門の森林技術者を出すことの少いために其經營法を誤り其煩ひを永く後日に殘すは誠に慨歎に耐ない次第である餘は尙終りに臨んで林業敎育の急務を絕叫せざるを得ないのである

學術

一樹一木　其十

ラウレルの木　小松吉次郎

ラウレルの木と云へば耳新らしく聞ゆれども月桂樹と云へば何人も其記憶を呼び起すべし三十七八年戰役に大捷を得て凱旋せし我將士日比谷公園に紀念樹として此樹を手植せられしより全國民盡く其名を知るに至れり南部歐州に產じ特に地中海沿岸の地方に多し喬木にして常綠なり葉楕圓にして全緣濃鬱たる香氣あり、此木常に勇將が其紀念とする起因はローマの歷史に倚るものなり其一二傳說に見ゆるものを記さんに

紀元前百十六年八月彼のハンニバルが羅馬の勇將パウロスの大軍をカンネの一戰に粉碎し威名赫々實に羅馬人は彼れを恐るゝこと韓人の我淸正公に於けるが如くなりき此時或田舍に於て此木の枝を携へ河邊を逍遙せる小女某ありきハンニバル此木の其香氣ある葉崇高なる花瓣を見切に得んことを求め遂に小女に强ゆるに至れり小女敵將に與ふるを潔とせず此枝を抱きたるまゝ身を投じて死し英雄の心膽を寒からしめきと、鳴呼當時羅馬人の忠勇義膽如何に盛なりしかを察するに餘りあり

紀元前四十六年羅馬の勇將ケーザル隣國を征定しローマに歸るや極めて壯嚴なる儀式を以て四十餘日間ガリア、エジプト、アアル

ナセヌ及アフリカ等の四大戰捷の凱旋式を擧行したるとき万衆歡呼の中にヂクタールに選ばれたるとき此木の葉を以て飾られたる冠を贈られたりと聞くされば往古羅馬人が如何に此木を尊重したるかを知ると共に當時の勇將此冠を戴くを無上の光榮とせしを見るべし、我國亦歐州の影響をうけて近年に至り紀念樹として手植するに至りしものなり

新瀉縣の林業

羽田生

等しく信濃の水を飲む兄弟の關係淺からざる隣縣の林業狀態は如何？今新瀉縣產業案内によれるまゝを記さんに

本縣森林の荒廢既に久しく縣下國有林野及御料林の面積約四拾萬町歩、公私有林三十二萬町歩内一萬町歩は採草地とし差引七十一萬町歩中林相を維持するもの殆んど見るべからざるの有樣なり經濟と保安との縣下に及ぼす影響亦多大にして一日も等閑に附すべからざるの狀態なるを以て明治三十二年始めて林業巡回教師を置き同三十五年に至り林業講習規程を發布し且つ樹苗下附は縣下の林情に適し最も急なるを認め同年より十五年斷續事業として三十餘萬圓の經費を投じ縣下適當の塲所に樹苗養成所六ヶ所を設け主として杉、檜、松、欅、櫟の五種を撰擇し總數八千百八十五萬本を養成し其樹苗を無償にて配布するの法を設け四十二年秋季迄下附したる苗木數九百六十五萬九千本、造林面積約二千二百町歩の多きに達し而も年々の下附出願數は遙に成苗數に超ゆるの實況なるを以て此機を逸せず益々殖林を奬勵し將來或は縣有模範林を經營して林業の發達に資し一面に於ては縣下民有林中林相の不良なるものは公有林を以て最とするが故に明治三十八年公有林經營規程を發布し三十九年十二月卅一日を期して營林方法の承認を受くる事とし漸を追ふて共有社寺有林等の整理を斷行すべき企畫なり尙ほ縣は本年（四十三年）より森林開墾區域調査の事業を開始せるのみならず一層森林の効用を永遠に保續し併せて公共團體及社寺の基本財產を造成せしめんことを期せり

森林の現狀　本縣は從來粗朶を燃料に供し或は工事に使用するの習慣あるが爲其面積は縣下山林面積の過半を占め山岳林は多くは山毛欅其他劣等濶葉樹の天然林にして僅に殖林の形式を備ふるは杉のみにして之を唯一の樹種として他を顧みざるの風あり隨て之を林別すれば喬林は全面積の百分の一三、六に當り杉を最として赤松、黑松、落葉松等繁生し、中林は其百分の四〇、七に當りて針濶混淆其他雜混淆を以て形を爲せり其他矮林百分の一七、八苦竹林百分の三、淡竹林百分の二八と云へる有樣なり

其種類は丸太、柚角、板割、板、寸角、松の丸太、柚角、板角、小割物最も多く欅の角材五葉松の丸太、柚角、桐の丸太等之に次ぎ副產物としては木炭を始として薪材、竹輪、杉皮、漆、紫蕨、松茸、椎茸等を重なるものとす

製造法　其種類は丸太、柚角松、柚角を酒田より、杉柚角同丸太、赤松柚角五葉松柚角栗枕木を會津より、薪を福嶋より、木炭を福嶋、富山、長野、能登より輸出す

縣立加茂農林學校東蒲原郡立農林學校あり共に林業の智識を養成せしめ大に教育に努むる所あるを以て志望者漸次增加の傾向を呈せり

著明なる事業家　中蒲原郡七谷村鶴卷龜太郎は二百四十三町歩、岩船郡闕谷村渡邊三左衛門は八百町歩、岩船郡中俣村羽越林業株式會社は二百八町歩、北蒲原郡中浦村市

且つ明治卅四年以來縣内數ヶ所に於て炭竈より噴出する煙を採用して醋酸塩類を製造するに至りしが技術拙劣にして未だ好成績を得ず岩船郡猿澤村地方にては靜岡並に三重に到り椎茸の培養を開始し北魚沼東蒲原佐渡の各郡にて企畫するもの多く將來有望なるの一事業たるべし

產額　最近五ヶ年に於ける重要林產物の產額左の如し

年次	用材價格	薪材價格	竹材價格	木炭價格	計
	円	円	円	円	円
三十七年	一五五、〇〇〇	八九五、七〇〇	八〇、八〇〇	三〇、一五〇	一、〇八六、〇六〇
三十八年	一五六、三〇〇	七四四、〇〇〇	七七、九〇〇	四二、九〇〇	一、〇八八、一〇〇
三十九年	一四九、一〇〇	四三三、一〇〇	四四、三〇〇	三九、一〇〇	一、〇六九、五〇〇
四十年	八九、〇〇〇	七〇八、八〇〇	五八、二〇〇	五三、一〇〇	一、〇九一、七〇〇
四十一年	九三、八〇〇	六四六、九〇〇	五四、四〇	六四、九〇〇	一、〇八七、二〇〇

輸出入　輸出としては新瀉市より函館、兵庫、大阪、東京へ杉、松角材、直江津町より長野群馬へ杉松角材、佐渡郡三島郡西頸城郡より富山大阪馬關越中へ杉松角材岩船郡村上町より大阪へ欅角材酒田へ五葉松丸太を輸出せらるゝ其他木炭は長野東京富山の諸府縣へ輸出す輸入としては杉、松、欅角材寸甫板とす森本庄ヶ關會津より、杉松角材を石川、越中、青森、秋田、山形より、杉、柚角松、柚角を酒田より、杉柚角同丸太、赤松柚角五葉松柚角栗枕木を會津より、薪を福嶋より、木炭を福嶋、富山、長野、能登より輸出す

嶋德次郎は六百町歩、北蒲原郡安田村旗野箕織は八百三十町歩を各造林し森林經營の方法を立てたり（以上）

拔萃

竹類開花の原因に就て

其二　（山林公報所載）

五、上原無休著五穀無盡藏に天明年中に淡竹のし枯れしこと及享保年中に苦竹の枯れしことを記せり之れによれば安永八九年より天明七年に至るまで七八年續ぎて止まざりし事を知る其病原は明記せざれども其書中に『早晩淡竹の簀は絶ゆるに至るべし』とあれり只單に病原により全國の竹林に傳染したと同時に全林を枯死せしめたる事なければ其病原は開花によりしこと明かなり

近時京都府奈良縣下の苦竹林に水枯病と稱するもの發生して逐次蔓延の兆あり此病菌は竹林の病害中最も裂しきものなりと雖も開花病の如く全竹林を盡く枯死することなし故に天明六年前後が開花盛なりし時期とすれば蓋し當らずとも遠からざるべし又遠藤元理著本草辨皷卷四には淡竹の

開花枯死したる事を明記せり曰く『寛文六丙午の年より本朝の竹悉く枯れて皆根を斷つはちくの外は不し枯花さき實のりて枯たる竹は其性虛く用に不立と之によれば其被害は海内に廣く又以て其當時著者が能く竹類一般に被害の有無を吟味したるを知るへし

六、小山田與清著松屋筆記卷四十の四二類聚大補任を參考したる右の記事あり

『唐竹枯類聚大補任下建長四年の條に寛治及建長年中諸國竹皆枯失畢適相殘分九牛一毛云々按に唐竹は今のはちくの意にて所謂吳竹なり』

近世和歌には竹を讀む塲合には必ず吳竹と云ふを例とせり之吳國より本土に移植して淡竹はよく繁殖せしにより之を唐竹とも又吳竹とも云へり卽ち建長四年には諸國の淡竹枯失して適々相殘る分は九牛の一毛に過ぎずと記せるを以て建長四年より五年前の寛元の終りより寶治にかけて開花盛なりしとす故に寶治元年を開花盛なりし年の一として撰ぶ事を得べし

以上擧げたるもの〻實例の中淡竹の開花を明記せるもののみを試に殘らず年代の順序に列記し其間の年數を記入すれば左の如し

淡竹開花年代表

明治四十一年（西暦一九〇八年）前後　各地方廳調査に據る　此間六十年

嘉永元年（西暦一八四八年）前後　關西地方中澤廣江氏其他による　此間六十年

天明六年（西暦一七八六年）前後　五穀無盡藏に據る　此間百二十年

寛文六年（西暦一六六六年）前後　本草辨疑による此間四百十六年

寛文六年（西暦一二四七年）前後　類聚大補任に據る　此間三百十六年

承平元年（西暦九三一年）前後　扶桑略記に據る　此間百十八年

弘仁四年（西八一三年）前後　日本記畧に據る　此間四百十年

年の倍數或は六十年を示せり

次に淡竹は古へ吳國より渡來したるものなれば試に支那に於ける開花年代を知らんと欲したるが近代に於けるものは明かならざるにより唯古文書に依るに佩文齊芳譜第八十四、竹譜（咸平二年江南轉運使言宣　竹生米民採食之）又欽定淵鑑類函二（元康年己

明治四十一年（西暦一九〇八年）淡竹　六十年

嘉永元年（西暦一八四八年）淡竹　六十年

天明六年（西暦一七八六年）淡竹　百二十年

寛文六年（西暦一六六六年）淡竹　百二十年

寶治元年（西暦一二四七年）淡竹　四百九年

政和四年（西暦一一一四年）竹種不明　百三三年

我永久二年（西暦九九九年）竹種不明　百五十年

咸平二年　六十八年

我長保元年（西暦九三一年）淡竹　百十八年

承平二年

弘仁四年（西暦八一三年）淡竹

元寨二年（西暦二九二年）竹種　五百二年

我應神天皇即位二十三年　不明

上に列擧せる如く日本支那各々風土の異れるにも拘らず共に是を列記したる開花年代の間隔は皆六十年に近きか或は六十年の倍數に近き年數を示せるを知る

開花時期は前後凡十年經續するが故に例へ算定が六十或は其倍數に盈く合せざるも稍近似の年數を顯はし居ること上に示すが如きに於ては過去に於ける淡竹の開花には大畧六十年の週期を認むることを得べし

爰に於て吾人は始めて支那書に竹六十年にして開花枯死のことを記せるも亦決して無稽の說にあらざることを知るに至る

又苦竹は太田亨德著勸農百首に記せる所及び中澤廣江等の語る所に依りて近くは弘化三年（西暦一八四六年）前後に本全邦土に亘

西界竹生花紫色結實如麥）と是等支那書に記せる所の種類を明かにせざれども淡竹か古へ支那よりの渡來したるものなれば支那南部各地には此竹の多く生せること想像せらる故に右の年代が淡竹の開花年代に合するや否やを驗したるに幸ひ皆都合よき年數を示せり是を本邦の淡竹開花年代と共にし再び次に列記すれば

りて開花せんこと明かにして其前は上原無休著五穀無盡藏に記せる所に依りて享保年中にも全國に亘りて開花せしことを知る故に假りに享保年中の中央の年代を採りて享保十一年（西暦一七二六年）を以て苦竹花開盛なりし年とすれば弘化三年とは其間相距ること百二十年なり然して弘化を去る六十年の今日に至りて苦竹は未だ一般に開花せざるを以て恐らく尚數十年の後に至るにあらずんば再び開花を見ざるべく是亦凡そ百二十年前後を週期として開花せるものと認め得らるゝものにして他に是を否認すべき反證を得す

前に擧げたる支那の古に亂花せしものは其竹種を明かにせざれば爰に苦竹か淡竹の開花週期六十年の二倍なる百廿年を週期とせるものゝ如きを以て支那古代に開花せしは本或は苦竹なるや知るべからす何となれば元康二年と咸平二年とは相距ること七百七年にして凡そ百廿年の六倍に近く咸平二年と政和四年と相距る百十五年なれば是亦百二十年に過ぎ數を示せるを以てなり兎に角我邦の苦竹淡竹の週期的開花に相當する開花年代の記錄支那に傳はり居りて本邦の苦竹、淡竹共に昔時支那より渡來したるものたる事の興味ある事にあらずや

孟宗竹は近世に於て本邦に渡來したる者なれば未だ全土に亘れる開花枯死の歴史を有せす此他本邦產の竹類中栽培のものは苦竹淡竹孟宗竹の如く多からず多くは庭園に觀賞用として僅かに栽培せるものなれば夫れ等の竹類は全國に亘りて開花せし記錄に乏しく亦山野に自生する竹類殊にさ屬の種類少からざれども夫等は淡竹苦竹の如き栽培竹と異なり世人の注意する所多なきが故に開花の記錄として週期年數を知るに足るべきものなし又開花の後結實する事多きものは種子より發芽したるもの相混生して複雜なる開花狀態をも示し居るものあるべし

（四）同種類の竹の開花は各地方同時期に發

既に述べたる如く苦竹の開花せしは決して一竹林或は一村落内の竹林に限られたるものにあらずして各地方に廣く亘れるものの如し殊に弘化嘉永の頃には井澤廣江氏及江戸の德山氏濃尾地方の坪井伊助氏が目擊せる所等によれば江戸附近に於ても同樣苦竹の開花枯れし事を知れり又弘化年竹に苦竹の開花せしは東京、岐阜、京都、大阪、香川、岡山等の各地方に廣く亘れる事を知るべく察するに本邦中央部苦竹の栽培せる地方一體に亘りし事なるべし

又天明年中淡竹の開花せし時も亦全國に晉かりしことを知る

寛文年中に淡竹の開花枯死せし事は遠藤氏の本草辨疑の記する所より察すれば本朝の竹と言へるは本邦の全土に被害ありしを知ることを確め得たるものなり

斯くの如く竹の開花は當今交通の至便にして國の内外の事情を速に知り得る時代に於ては我邦は勿論諸外國に於ても同じく開花の狀態にあるを知り又昔時交通の甚だ不便なりし時代にありては見聞し得る範圍にて其の開花廣く各地に亘りし事を記せるものなれば余は同種類の竹の開花は國人の東西世の古今を問はず皆同時に發するものなるを主張する者なり

文苑

駄馬をして千里の道を走らしめよ

害の狀を前記の如く通牒により知る事を得るも昔時に於ては其の蔓延の狀態を糺す手段なければ彼の『殘分は九牛の一毛に過ぎず』とさへ云へるは之其被害如何にも激甚なりしことを推知するに難からず

尚現時淡竹と共に各地一般に開花を見たるは淡竹の變種に屬する雲紋竹黑竹及び女竹にして現時に於て昔時我邦或は支那より歐洲其他の國土に移植せられて植物園に植へられ或は實用上の竹林として栽培せられたる此等の竹大抵皆我那に於ける開花時期と略同時に開花し續て枯死したり

即ち「ガーデナース、クロニクル」誌上に報せるは我國淡竹雪紋竹女竹の類にして歐州各地に栽培せられ皆同樣に開花しつゝあるを知る又三年前白耳義國植物園より我が牧野富太郎氏に宛て書翰を添へて一色の開花せる竹の標本を送りて同國の竹が計らずも近年開花するに至りたることを報じて來れり此の鑑定の結果少くも淡竹の我國と同樣に現時歐洲に於ても亦開花枯死しつゝあることを確め得たるものなり

長谷部麓人

○世の人は謂ふ、先輩とは自分より年齡、學識などの優ぐれたる人物である、と

學識の優ぐれたる、人格の高潔なる人物を指して先輩と云ふは甚だ可なれ共年の上下老若を以て先輩と目し先輩として他に誇るべきは聊かもやましくはないか。りれが至當であらうか、然り吾々は若年者よりよく先輩として其の讃辭をうけて居らるゝだろうか、又必しも年長者に對し先輩として尊敬せねばならぬたろうか。果して然りとせばうの年齡の老幼上下は何を意味するものだらう。一日は一日より一月は一月より一年は一年と、より早く現世へ顏出ししたのに過ぎぬではないか、其の間に於て人格の高潔、學識優秀の士とか又は其々社會に相當努力して効果の顯著なる者社會を益し國家を利し吾壽後進者の模範的、師範的人物はれいて只單に三度三度の平凡な飯を食ふて來た人間が果して幾何の價値があるだろう。後進者に對し、國家に對し、社會に對して如何程の値が認められるだろう、よし、うういふ人々は先づ別として、もし其の反對に進んだ人間であつたならば如何だ、精神的に物質的に何れの方面からも殆蛇蝎の如く嫌はれつゝある人間は如何だろう、『僕は兄等の先輩者である、先輩者に對する禮を知らぬか、何故尊敬せぬか、何故温順に云ふ事を肯かぬか』と權を張り威をほのめかし彼等が頭上に大手を振ることが出來るだらうか、若年者は彼等に對して尚ほ唯々諾々たらねばならぬか。

然り僕は此麼屈辱的な文句は速に取り除いて了まいたいと思ふ、實際世の多くは、自分の年のこうを笠に着て威張りたがるものの類々なのは爭はれぬ事實である、度量の狹隘なる者こうそうゆう樣に見うけられる、是でも否でも下年者、若年者を見ること、覩で相手になれぬやうな面相をして居る、やからに出會するとほんとに鐵拳の一も見舞ってやり度く思ふ。りれほど權威を示したくなるならば其れ相當のことをしてたが好い。りこに相當なすべき途があるだらうと思ふ。

如何に吾々青二歳でも二歳相當の意識を、つてる、善惡是非位は辨へてる、一分の中にも三分の魂があるとか

たとひ書生論であつても、駄論であつても、兎も角耳を傾けて貰いたい、りして謂はんと欲するところを殘りなく腹のドン底からドン底までも云つて了まい度い。

勿論我が同室にはうんな沒曉漢は一人もいと思ふが、何れの社會に於ても一も先輩を、まいて貰いたくないものである。

二も先輩と無暗に先輩風を吹かして後進者されど曲解せられざらんこと望む、文辭或は穩當を缺くものあるやも知らざれ共僕は或る人物を捕へ來つて人身攻擊したのでもなく又同窓諸兄を諷刺したのでもない事を

○吾々は二百有餘の同窓と百有餘の校友とを有する光榮を有す、僕亦其一人であることは深く心强く思ふ。

吾々同窓は長くはないが三年の間今も昔も尚ほ變らぬ清き蘇水の流をくみ且つ同一の竈の飯を食ひ而して同一校舍の窓に共に敎育されたのだ、其の友情の淺くて何んとせう、實に深かるべきものである、けれど現狀はどうであらう。吾等は三年の間、席を同ふして特殊の敎育を授けられたのだ、りうして社會に出てからも亦特殊の業務に從事しつゝあるのだ、故に普通ありふれた他の學校卒業生と同日に論ることの出來ない或る力のこもつたフレンドシップがなくなつてならぬ筈である。

卒業式の誓辭は徒に形式に囚はれたるボイスに流れてしまやせぬか、同窓に對し校友に對し當時の事を追懷して今更の如く其れを思ひ出しはせぬか、かく云ふ僕自身も其一人であることを深くかなしむされど燒直したる自分の意志の後日あるを思つてゆるして給へ。

されば吾々同窓間の關係如何（校友會を離れて單に卒業生間の關係を云ふ）吾等は蘇校同窓として校友としてなすべきウアールクを有しながら各自個々に働いて居はせぬか、同窓の團結を以て他に對抗し能ふ者があるか、惜むらくは今日まで其等の會のある事を聞かぬ、只四五の同窓相集ふて昔を談つた位のことが一二回あつたに過ぎぬではなからうか、而して其の會にして或る事業のなされた事も聞かぬ。吾々同窓の團結甚だ微弱のものではないか、吾々卒業生個々の能力は漸く社會から認められて來たのは甚だ慶賀すべし、此の秋に當つて吾等同窓は大いに活働をせねばならぬ、即ち母校盛名の益廣く且つ大なる勢力の其の社會に得んには是非共吾等同窓團結して各地に青旗を飜し共に與に事に當らねばならぬと思ふ機將に熟せんとして未だ其の結果を見ないのは實に殘念である。けれども玆に特筆せねばならぬものがある、りれは此度前述のやうな趣旨から長野市へ蘇門會なるものが設立されたことである、即同窓の親誼を圖り後進者を尊き校の爲め努力すべく生れた會である、普通よく行はれる飮寄會などとは其趣を異にして居るのである、此會の此處に生れたのは吾等衷心喜悅に堪へぬ

其の會の事業は日を逐ふて大いに見るものがあるだろうと思ふ。

多數同窓諸兄の活働されつゝある各所に斯樣な會の續々設立されて彼此相俟つて蘇校の爲め同窓の爲め大いに圖られんことを切に望む

○在校生諸君。諸君は果して校を愛し校を思ひ同窓を思つてくれるだろうか、勿論僕は同窓云々と云ふも先輩後輩の意味から云ふのではない、吾々は母校を中心として其の周圍に活働すべき一分子であると云ふ意味から云ふのである、けれども其の一部分には或は先輩の意味が含まれてるかも知れぬ。在校生諸君に『校を愛し校を思ふや云々』と聞く甚だ極端奇聞のやうに聞ゆるけれども實狀は如何、よくある個人間の衝突やクラス間の軋轢を止めて專心學業に就き人格修養に其のタイムを費して居らるゝや一時的感情の衝突、個性間の反感の爲めに個人間、クラス間の圓滿を缺き結果見苦しき行爲となつて其の醜を外部にまでも及ぼし幾多の歲月を積んで積みあげたる歷史の一頁だけにも汚點を印したとせば如何だろう、それか相當諸君がなすべき途であると云はれやうか、其歷兒戲見たいな事を絶對にやめて眞面目に勉學された方が何程有利であるかも知れぬ、一度校を卒へて社會に出て見給へ、うんなことは實に龜の子の放屁した程の値もないのである。

諸君は既に聞きなれて大々的月並であると云ふであらうが『僕は卒業してから大いに勉強してやろうと在學中は及第さへすれば好いのだ、うんなにくよ〳〵することはないじやないかマア學生時代に大いに遊んでやろう』なんて思ふのは大見當違だ、勿論卒業してからも勉強せねはならぬが鞏固なる根底を是非共學生時代に修養しておかねばならぬと思ふ。

頃日聞く、校風頓と揚り兄等が風貌實に堂々潑溂の狀、万丈の壯氣將にあふれんばかりと、吾等同窓は是を聞いて、何んと云つて好いか、うれしさ餘つて適當にうれしさを云ひ表はすことが出來ぬ、先諸君校風の爲め大いにやつてくれ給へ。然し形式に囚はれたるものは永久繁榮し難く頽廢し易きことを思つて愈其の基礎を固め所謂蘇校々風の益發揚せんことを圖られんことを望む。

○吾等同窓と在校生諸君との間、幾分隔絶してゐる感がならずんしも吾等は右へ至るべし君は其の道行くかの者の手をとつて導いて給はぬか。

其の見聞、實驗細大となく書を寄せて、相互に過去を語り現在を談じ未來を圖られんことを望むや切。

○本誌岐蘇林友の月刊に且つ體裁漸次整美されて行く尙ほ此上希望したいのは岐蘇校友時代のハガキ集とも稱すべき欄を特設し同窓一般の通信を一束して載せて貰いたい又一年一回位校友附錄としても或は其の一部を割かれても、卒業生活働の狀況を知らしむると同時に其の現住所を一纒にして發表して欲しい。ハガキ欄は六號活字で結構先頃から辭令欄を設けられたのは大いに强みを感する。其の誤謬のなきことを望む

○文甚た拙劣、又意の徹底せぬところもあろべし、御判讀を乞はん哉

本文ものし終れば漸く傾きうめし寒月愈するどく冴え、万象寂として聲なく頭上の八角時計のセコンドを刻む響のみ高し

……二月一日夜……

洋舟小言　洋舟生

△兎烏匆々　兎烏匆々何人も怠てはならずある。たとへ其の體裁に於て如何程變るとも岐蘇林友は何時までも其の趣旨に於て校友會々報であらしたい

○同窓生諸君、再び謂ふことを云はしめよ我が林友は吾等が同窓、校の内外を共通する機關誌であることを、期せよ、其の大る發展と大なる活働とを。可惜現狀如何、殆在校生諸君の筆戰場たるに過ぎないではないか、筆戰場可なり、されぞ只卒業生諸兄の寄書なきを甚だ淋しくいと物足らなく思はれるのである。

卒業生諸君、諸君は何故麟物禁じ能はぬ氣焰をこゝにはき給はぬか、うして吾等後進者の手をとつて導いて給はぬか。

其の見聞、實驗細大となく書を寄せて、相互に過去を語り現在を談じ未來を圖られんことを望むや切。

○本誌岐蘇林友の月刊に且つ體裁漸次整美されて行く尙ほ此上希望したいのは岐蘇校友時代のハガキ集とも稱すべき欄を特設し同窓一般の通信を一束して載せて貰いたいのである。左樣吾が岐蘇林友は其の爲めに存在してるのである。校友會々報は岐蘇校友に、校友は更に岐蘇林友に變つたのである、其の趣旨に於ては些の變りもないうの現在の岐蘇林友がよく其の諸兄其他關係者諸氏の多大なる犧牲と甚大なる勞苦とによつて益發展されつゝあるは誠にうれしく常に關係者諸兄に對し感謝の意を表して居るものであるけれども其の體裁に於て趣旨に於て校友會々報としての目的より漸次隔たりゆく傾向なきか、極端に云はすれば幾分賣文雜誌の如き感なきか、僕稗見であるかも知れないが爾く思はれるのである。特に筆をすゝめて當事者諸兄並に同窓生諸君の一考を煩はさんとする處で

學修に志せる者は殊に怠惰は禁物なり

怠惰に馴れなば別に樂とも思はれず、人間は勉强が過ぎて死ぬが如きこと滅多に無きものなり、人生には怠惰に送る樣なる餘裕なし、大に勉勵すべし

されど成功を急ぐは不可なり、學びの道に志す者、一度怠惰の念起らば兎烏匆々を思ひ浮びて鞭撻すべし、成功に思及ばゞ兎烏匆々何のうの不急不驟悠々として進路を辿るべし。

△囊中寂寞、囊中寂寞は妄念をして餘儀なく去らしめ得るものなり、菓子喰ひたしと思ひたる時囊中豐富ならば直ちに喰ふべし酒飲みたしと思はゞ直ちに飲むべし、錢なければ思ひ止まるなり、餘儀なくせられたると克己の力に因ると原因は異れども結果は同じく情緒の抑制なり、小人も囊中寂寞の御蔭にて君子の域に進み妄念を去りて胃の腑の健康を保ら得べし

囊中寂寞なるに不正の手段を以て妄念を徹せんとするに至つては寂寞も亦何等の價値なし。

△濃度高きを貴ぶ、學修に於ては濃度高きを尙ぶ、所謂しつこきがよし、學窓に在りて疑念生せはどこ迄も追究して吾が腑に落つる迄質問すべし、斯くあらんなど見當違ひの推測して濟ますは不可なり

學は疑あるを貴ぶ、疑生せざるが如きものは既に語るに足らず、疑あらば宜しく濃度を高くして追究すべし、學修には斯くあるべし、されど日常世に處するには淡白なるべし、淡白と冷淡とは混同すべからず、人に對しては淡白にして冷淡ならざるを要す

△大に論ずべし、余は言ふ學生は議論あるを尙ぶと、日常學修せし所に就て論ずべし、新聞紙を讀みたらば記事に就いて論ずべし勿論所謂三面記事に就いての謂にはあらず學修せし處に就いて議論なく、新聞を讀みても之を話題にだも上ぼせざらば得たる智識の價値少きものと言ふべし

人或は言はん、机上の空論は何等の價値なしと、されど頭腦を練磨するに於て所謂机上の空論大に必要なり、況んや日々の學修に於て所謂空論なるものなきにしもあらざるに於てをや、火鉢を圍んでぼんやりして居る暇に大に朋輩に向つて議論を吹掛くべし、議論始まらば寄りたかつて花を咲かすべし

○和歌一首

アルプスの高嶺の雪もうつるなり木曾の河波春たちしより

雜報

林界雜俎　細江生

○名木美林調査　信濃山林會にては今回本縣内に於ける老木若しくは美林にして名勝風致に關係し特に保護を要するものに就き調査するに決し各郡市委員に向つて來る四月末日迄に其回答報告を依賴せり調査の要件左の如し

一、老木又は美林の別、並に所在町村字名
二、老木は樹種樹齡其本數及長さ等
三、美林は樹種樹齡面積並に大要の本數
四、歷史的緣故あるものは其大要
五、樹木土地の所有者
六、神社寺院に附屬せる者は其神社寺院名並に社格宗派を記載し且樹木生立の土地は境内なるや否やの區別を明記すること
七、以上の外參考となるべき事項は可成詳細記載すること
八、寫眞等あらば可成添付すること

學校記事

○擊劍稽古　一月二十七日午前十一時本縣警務部長に隨行來福せる柴田克己氏の來校を機とし一時間割擊劍の稽古を請ひ終つて同氏一場の演說を聽く

○兎狩　三月十日午前九時より新開村字荒の原の山に於て兎狩を擧行す網を張り隊を分ちて三回程狩立てしも狡兎遂に手に入らず午後一時新築校舍に引揚げ豫て用意せる豚汁に一同舌鼓をうち午後二時頃歸校せり

○紀元節　二月十一日午前十時職員生徒一同講堂に參集聖影を拜し國歌を誦し次に校長の式辭ありて十一時終了せり當日は近來稀有の好晴にて恰も國運の益々隆昌なるを表するが如く國民鼓腹泰平の氣象洋々たるものあり眞に佳節なりし

○岐蘇校友倶樂部設置　一月中倶樂部の設置ありたり委細は別項にあり

木曾校友倶樂部新設に就て

倶樂部設置の件に就ては前々から種々話も出て居つたがどうも良い場所がなかつたので其儘と成つて居た處が本年第二學期中頓に其必要を感じて職員諸氏を始めとして矯風委員の諸君が奔走せられたけれども遂に學期試驗に妨げられて設置を見るに至らなかつた、が愈々冬季休業も終つて歸校した所が今度は是非共倶樂部を設けなければならないと云ふので又々大に奔走して茲に首尾よく木曾校友倶樂部の看板を見ることゝなつた場所は學校に最も近き中央橋畔で木曾倶樂部玉突場に續く一棟の建物である座

敷は三室あつて裏は永久に流れ盡きせぬ、木曾の清流に臨み表は一本の老梨高く聳ゆる廣場を控へ夏は涼しく冬炬燵の供へありて暖き眞の樂天地である

去る一月二十五日に校友會員一同を講堂に集め江畑會長より校友會の事業として倶樂部を新設したる理由を御話しになり、茲に全く順備も出來たので翌二十六日から開場することになつた、其目的及方法に付ては左に掲ぐる規約に依て御了解になることと思ふ

木曾校友倶樂部規約

一、本倶樂部は木曾山林學校々友を以て組織　木曾校友倶樂部と稱す

二、本倶樂部は校友の風儀を高め娯樂を倶にし親睦を厚ふするを以て目的とす

三、本倶樂部には圍碁將棋クロック等を備へ付け會員の使用に供し且つ蕎麥菓子果物等を備へ會員の需要に應ず

四、倶樂部以外の商店に於て飲食すべからず

五、集會の時間は學校に於て定めたる寄宿舍の外出時間内に於てするものとす

但し特に集會を要する時は其時日を學校長に届け出で許否を受くべし

六、本倶樂部の取締に關し幹事六名を置き矯風委員を以て之れに充つ

七、左記の場合に於ては本倶樂部に宿泊することを得

但し此の場合には本人より學校長に届出で承認を經べきものとす

イ　寄宿舍開閉前後

ロ　通學生の爲に宿泊を要する場合

ハ　卒業生來訪の場合

如斯き規約であるから卒業生諸君にして御來靈の節は此倶樂部を利用して在校生との舊交を温められ亦在校當時を忍ばれんことを希望する次第である（記乃志多）

寮より

雪の中に埋れて足踏みする人もなかッた寄宿舍も一月十八日より開かれ申し候

年越した塵掃除行李本箱の整理で二三日が間は夢の樣に過ぎ申し候

新しく年を迎へた事とて誰も威勢よく不景氣風なぞ何處へやら彼處でも此處でも呵々大笑休暇中の話で持ち切りと云ふ有樣打つ碁石はじくクロック迄意味ありげに勇ましく響き居り候今が今迄此の廣い家を乃公一人が天下と極め込んだネヅ公も屋根裏に縮込み目許りキョロ〳〵サセ居り候例により疊の張替へで各室共奇麗になり申し候

圖書室も新聞雜誌の新年號で相當に賑はひ居り候寒氣の增す位が變化と言へば變化正月だけに御目出度し無爲に月日は飛去り申し候

德富先生の所謂「冬の聲」なる林の吼ゆる音を窓窓越しに聞く冷たき寒月積雪に冴ゆる夕峻烈なる冬の神の威を奪ひ給ふ二月を迎へ申し候

歸省中の面白かつた話よりさては失敗談等にも飽き候生等は茲に例年の如く痛快なる兎狩りを催し候獲物の多少は論ずるに足らず若い中は飛んで跳ねてまして風の子の本能をあらはし申し候本月も比較的無爲に早半を過ごし申し候、木曾校友倶樂部新設せられてよりは三三五五打ち連れ立ちて音づれ放課後の寄宿舍は甚だ淋しく相成り申候今回は之れにて御いとま申候（村松）

校友消息

○兵庫縣山崎小林區署に在勤せる校友新田忠次郎君より來狀益々勇健御奮闘の由尚同署々長の造林事業に關する訓辭事項を抄錄して送らる多謝々々

○青森縣に奉職の藤卷壽一君は今回同縣東津輕郡奥田村内眞部小林區署に轉任斫伐事業に從事の由同地は津輕美林の本場にて官行製材所もあり水陸の便を得たりといふ尚同氏よりは近々本誌に寄稿せらるゝ筈

○轉任

木下清君

富山縣西礪波郡林業技手ニ任ズ

青森大林區署森林主事　藤卷壽一君

任林務技手給十一級俸

陸軍歩兵少尉正八位　但馬廣造君

石川縣河北郡林業技手ニ任ズ

帝室林野管理局木曾支廳　市川潔君

雇ヲ命ズ給月俸二十圓

大阪大林區署森林主事宮崎惠喜太君

同　松澤萬吉君

給月俸二十一圓

高知大林區署森林主事　南村末吉君

給下俸十八圓

宮城大林區署森林主事　田中吟重君

同　仲田惠令君

給月俸十七圓

上　原雛助君

同

任林務技手給十一級俸

廣嶋大林區署森林主事　新田忠次郎君

月俸十六圓下賜

會費領收報告

金七十二錢宛日野雅亮君、松井定道君、金五十錢宛新田忠次郎君、金田美行君、金三十六錢宛宮澤清輔君、本多清右衛門君、奥原吉右衛門君、肥後金四郎君

編輯局より御願

一、本誌に御投稿の際は可成十九字詰原稿紙を用ひ字體は鮮明に願上候尚歐文は印刷不可能に付飜譯の上御記入被下度候

一、卒業生諸君の希望も有之此度本誌にはがき欄相設候間林業は勿論其他に就き實益と趣味と何れを問はず諸兄の見聞する處其他本誌に對する希望注文或は會員の消息等雜書を於て御通報下され度冀望の至りに候

明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可